

# 新人看護師の看護に対する行動の変化 ～危機的状況に注目したインタビュー調査から～

キーワード：新人看護師・危機的状況・行動変化

7階北 ○仲谷美弥 橋向美穂子

辻本有起代 仲野美和 亀井智子

## I. はじめに

多くの新人看護師は危機的状況に陥る体験をする時期があり、それに伴い、受身的な姿勢から主体的な姿勢へ行動の変化が見られるとされる。そしてその体験を通して芽生える自己責任を基盤に、初めて新人看護師なりの自立の模索が始まるとされる<sup>1)</sup>。

A病棟においても、新人看護師はいつからか周囲にも感じ取ることができるほど積極的に行動しようとする姿がみられるようになっていた。これは新人看護師が何らかの危機的状況を経験したため自己責任が芽生え、行動が変化したのではないかと考えた。

今回、危機的状況についてのインタビューを行い、その内容について分析した。

## II. 研究目的

新人看護師の体験した危機的状況を知り、その経験の前後での看護師としての自覚や行動の変化を明らかにする。

## III. 用語の操作定義

危機的状況とは、事故・急変との遭遇、自分のことで手一杯といった「パニック・失敗」という体験と定義する。

## IV. 研究方法

### 1. 対象者

A病棟勤務の経験年数2年目以上の看護師の中で、200X年度に就職し、当院のプリ

セプターシップにのっとり教育を受けた者。

2. 調査期間：200Y年10月15日～29日

3. 調査方法：インタビューガイドに基づき、1時間程度の半構成的面接法をプライバシーの保護が可能な部屋を用意して実施した。

### インタビュー内容

①新人看護師の時の印象に残っている危機的状況とはどんな場面ですか。

②その危機的状況を経験し、どのように行動が変化しましたか。

③その危機的状況を経験する前はどのような姿勢で勤務していたと思いますか。

### 4. 分析方法

インタビューを逐語録におこしコード化した後、森ら<sup>2)</sup>の新人看護師行動の概念を用いサブカテゴリー・カテゴリー・コアカテゴリーへと分類し分析を行った。なお研究者およびアドバイザー間で内容を何度も吟味し、信頼性の確保に努めた。

### 5. 倫理的配慮

研究を辞退する権利、参加の有無によって不利益が生じないこと、得られたデータは本研究以外に使用しないこと、プライバシーの保護に関して口頭および書面で充分説明し同意を得た。なお、本研究は看護部看護研究倫理委員会の承認を得ている。

## V. 結果

・A病棟の看護師2名よりインタビューを得ることができた。なおインタビュー時間は1名につき1回、約70分であった。

・危機的状況として、A氏は急変患者への対応、B氏は患者の離院をあげていた。

・危機的状況前後での行動について10の категорияと12のサブカテゴリーを抽出することができた(表1~4)。

表1 A氏が危機的状況を経験する以前の行動

コアカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー
単独実施義務知覚による実践決行と支援要請躊躇	知識・技術の不足による看護展開・業務遂行の混乱と停滞	優先順位決定に伴う看護業務遂行の停滞

表2 A氏が危機的状況を経験した後の行動

コアカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー
単独実施義務知覚による実践決行と支援要請躊躇	不適切・欠落部分発見による看護実践の補足・修正	欠落部分発見による自己学習の開始
状況理解進展による看護の個別化と円滑な業務遂行	経験反復による患者個別状況・病棟環境への理解進展	経験反復による優先順位決定能力の習得
	経験反復による未習得技術の定着	経験反復による看護記録記載能力の習得
	看護展開・業務の円滑な遂行による緊張からの解放と関心の拡大	チームの一員としての自覚に伴う関心の拡大

表3 B氏が危機的状況を経験する以前の行動

コアカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー
単独実施義務知覚による実践決行と支援要請躊躇	知識・技術の不足による看護展開・業務遂行の混乱と停滞	情報と患者像が関連づけられないことによる看護展開の停滞
		情報の理解不足による非効果的な看護展開
		患者行動への理解不足

表4 B氏が危機的状況を経験した後の行動

コアカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー
資源依存による目標達成と資源枯渇による応用開始	患者情報の獲得と活用による個別状況に合わせた看護展開	患者情報を活用した看護展開の実践
臨床状況理解進展による看護の個別化と円滑な業務遂行	経験反復による患者個別状況・病棟環境への理解進展	経験による患者個別対応への理解
		患者への理解進展による個別状況に合わせた看護展開
	患者との関係形成による相互行為の発展	患者行動への理解進展
		患者心情の共感による良好な相互関係の形成

## VI. 考察

A氏は急変を経験する以前は、{優先順位を考えるのに時間がかかった}という【優先順位決定に伴う業務遂行の停滞】を挙げている。また{先輩だから見てくれるだろうという甘え}があり、責任を持って患者を受け持つという自覚が不足しており、就職後も「指導してもらえ」という受け身の姿勢であったと考える。

このような状況下でA氏は「急変患者への対応」という危機的状況に遭遇し、{患者が急変したのを見て頭が真っ白になった}という経験をした。また患者の急変という場面において{どうしたら急変時の対応ができる看護師になれるのか分からなかった}と自己を見つめ直した。

その後{自己学習した}、{物品場所をいつも確認していた}と【欠落部分発見による自己学習の開始】が表れている。急変という患者の命に直結する一刻を争う事態を経験し、自身が看護師であることを自覚し、患者を受け持つという責任が芽生えたと考える。平賀ら<sup>3)</sup>は「新人看護師は、経験を積んだ看護師よりも責任を重く感じることもある」と述べている。自らの知識不足が看護を実践していく上でいかに危険な状態であるか身を持って理解し、危険な状態を回避しようと自分の不足部分を補うため積極的に学習する、物品の配置など病棟の環境にも興味をもって確認するなど行動を開始したと考える。

B氏は離院を経験する以前は、{情報と患者像が関連付けられなかった}という【患者と患者像が関連づけられないことによる看護展開の停滞】、{意味も理解しないまま言われたことをしていた}という【情報の理解不足による非効果的な看護展開】があった。西田<sup>4)</sup>も新人看護師は「患者の状態や予定を考えて行動することができずに、目の前のことから取りかかってしまう」と述べているように目の前の業務をこなすことに精一杯で、指示通

りにただ業務を行うだけという受け身の姿勢となっており、責任を持って患者を受け持つという看護師としての自覚は芽生えていなかったと考える。

B氏においては「患者の離院」が危機的状況であり、{患者が離院した衝撃}という経験をした。また{予期せぬ患者行動に対する認識の甘さ}という【患者行動への理解不足】に気付いた。

その後、{予期せぬ患者行動もあると知った}という【患者行動への理解伸展】へと変化した。また{患者像に関連づけた情報がとれるようになった}と、患者像を把握するために必要な情報は何か理解した上で情報収集し、責任を持って受け持つ重要性を自覚したと考える。平塚ら<sup>5)</sup>は新人看護師は「実践の場で看護師として患者と関わる中で改めて“責任の重さの意識”を実感する」と述べている。また{巡視や処置以外にも患者の存在をいつも確認するようになった}という【経験による患者個別対応への理解】へと変化しており、主体的な行動が現れていると考える。

今回のインタビューにより、A氏とB氏で経験した危機的状況の場面は異なっているが、両氏ともそれを機に看護師としての自覚が芽生えたと考える。危機的状況に遭遇し、自己の欠落部分が明かになり、それを解決しようとした行動が主体的な行動へと変化した。これは宮崎ら<sup>6)</sup>が「危機的状況の経験は命にかかわる看護という仕事の恐さ、責任の重さに直面する大切な機会であり、それまでの学生気分から彼らなりに有資格者としての自己責任が芽生える」と述べていることにも一致する。また、新人看護師は主体的に行動し経験を重ねることで、看護実践能力を獲得でき、看護展開していくことができるようになっていったと考える。

## VII. まとめ

### 1. A病棟の新人看護師の体験した危機的状況

は、患者の急変、患者の離院であった。

2. 新人看護師は危機的状況を経験する前は受け身の姿勢にあり、看護師としての自覚や責任は乏しい。
3. 新人看護師は危機的状況を経験した後は自己の欠落部分に気づき、それを解決するため主体的な行動へと変化し、看護師としての自覚と責任が芽生えてきた。

## Ⅷ. おわりに

新人看護師に関わる先輩看護師は、新人看護師の特性を理解した上で見守り、変化を見逃さないように注視し、成長に繋げていけるように関わっていくことが必要である。

## 引用文献

- 1) 宮崎恵美、他：新人看護師の看護に対する自信とそれをもたらす要因、第 38 回日本看護学会論文集 看護管理、18-20、2007
- 2) 森真由美、他：新人看護師行動の概念化、看護教育学研究、13(1)、51-64、2004
- 3) 平賀愛美、他：新卒看護師のリアリティショックに関する文献を用いた構成要因の分類、北日本看護学会誌 8(2)、13-25、2006
- 4) 西田朋子：就職3ヶ月目の看護師が体験する困難と必要とする支援、日本赤十字看護大学紀要、20、21-31、2006
- 5) 平塚陽子、他：新卒看護師が感じる看護基礎教育と看護実践現場とのギャップ、北日本看護学会誌、11(2)、13-21、2009
- 6) 前掲書 1) 18-20

## 参考文献

- 1) 宮崎恵美、他：新人看護師の看護に対する自信とそれをもたらす要因、第 38 回日本看護学会論文集 看護管理、18-20、2007
- 2) 森真由美、他：新人看護師行動の概念化、看護教育学研究、13(1)、51-64、2004